

# リードアジアプログラム

私は、八月二十日～二十八日の九日間、リードアジアプログラム（主催：日中学生交流連盟・独立行政法人 国際交流基金日中交流センター）に参加しました。

このプログラムは、近年の就職活動やインターシップへの関心の高まりを背景に、「働くことへの好奇心をきっかけに、日中交流に興味を持ってもらう」というコンセプトのもとに生まれた新しい日中交流プログラムで、ビジネス（企業訪問）をメインとし、対中ビジネスなどをテーマに日中両国の学生が共同で課題（ディスカッション）に取り組むほか、文化交流を共に行うことを通して、アジアをリードする人材へと成長する第一歩になることを目的としているプログラムです。

私が、このプログラムを知ったきっかけは、大学生交流事業（主催：国際交流基金日中交流セ

ンター）とリードアジアプログラムの合同説明会に参加したためです。

選考が終わり、参加が決定した頃に送付されたしおりを見た時の印象は、高いレベルの参加者の中で私は九日間やりきれぬのか、ついていけないのか、といったものでした。

リードアジアプログラム初日、期待と不安いっぱいでのその日を迎えたが、その不安は自己紹介を終えてすぐに、打ち消されました。自己紹介後の休憩の時間には五人の友達が話しかけてくれ、すぐに打ち解け、私の長所である社交性にスイッチが入りました。その後のアイスブレイク（マシヌマロタワー）では、見事優勝を取め、幸先の良いスタートを切ることが出来ました。

二日目は、元野村総研中国副經理の寺島英雄様、元丸紅中国総代表／ABICの真鍋忠央様

外国語学部 中国語学科 3年 三浦 史華

から三日目から始まる企業訪問で着目すべき点、ディスカッションのコツ、中国やその他海外と日本において考えられているビジネスの違い、などについてお話を伺いました。午後の文化交流では、東京大江戸博物館へ行き、中国人と日本人の合同チームで展示品に関するものから、欧米人や警備員さんと写真を撮るといったものでさまざまなミッションにチャレンジしました。料理大会では、中華料理と日本料理を中心に作るといったもので、私の班はシーフードチャールハン、麻婆豆腐、グラタン、那須の炒め物、トマト砂糖掛けを作りました。（今思えば日本料理がない・・・）この時に、中国ではトマトに砂糖をかけて食べる文化があることを初めて知り衝撃でした。

三日目・企業訪問初日は、横河電機様と藤田観光様（ホテル椿山荘東京）に伺いました。横河電機様では、グローバル企業とは？という定義に

ついで、藤田観光様では、日本の魅力を海外の方に伝えるにはどうしたらよいのかについてディスカッションを行いました。企業訪問初日ということで、前日の元野村総研中国副経理・寺島様、元丸紅中国総代表・真鍋様からのアドバイス、頭にはおいていたものの、そう上手くはいかず、話が纏まらないまま発表といったこともこのころは多くありました。ただ、初日の一社目から、ブレゼン発表を立候補したことは次の日以降大きく繋がったと思います。午後に伺った藤田観光様は、かねてから興味のある業界で、今回の企業訪問の中で最も楽しみにしていた企業様だったこともあり、休憩時間などを用い社員の方にお話しを伺うことが出来ました。

四日目・企業訪問二日目は、JTB様、NNA様に伺いました。JTB様では、中国からの訪日修学旅行生を増やすにはどうしたらよいのかについて、ディスカッションを行いました。(写真) JTB様がディスカッションをするにあたり、どのような点に着目すべきか具体的に、訪日修学旅行の目的について三点、なにを見たいのか(中国側)、なにを見せたいのか(日本側)、ハイライト、提言、などリストアップしてくださいといたこともあり、筋道を立ててディスカッションを行うことが出来、また、初めに前提条件をリストアップすることがいかに大切かを学びました。

五日目・企業訪問三日目は、ファーストリテイリング(GU)様、資生堂様を訪問しました。ファーストリテイリング様では、中国でGUの認知度を飛躍的に高めるためにはどうしたら良

いかということについて話し合いました。GUは今回の訪問企業の中で最も利用することが多い身近に感じる企業だったので、ユニクロの中国展開と比較して考えるなどして話を進めました。私たちの案は、ジーユーを自由(jiyou)と中国読みを用い、尚且つロゴも自由に変えてしまうといったものでした。この自由とは、GUのブランドメッセージでもある、「ファッションをもっと自由に。」の自由にも匹敵するのではないかとという意味も込めて、です。これが驚くべきことに、GUというブランド名の本来の由来であること誰が予想したでしょうか。ファーストリテイリング様も良い点に着目してくれたとコメントをいただきました。午後に訪問した士制度では「美しい生活の文化とはなにか」について話し合いました。訪問させていただく前は、国内シェア第一位の化粧品メーカーということしか知らなかったのですが、食や美術の展示をしていることも今回初めて知りました。また、化粧品部よりも資生堂パーラーの方が先に出来たということも知りました。また、夜の講演会では、外務省参事官/外務副報道官大鷹正人様のお話しを伺いました。大鷹様には、2016年5月27日のバラク・オバマ大統領の広島訪問や、尖閣諸島をはじめとした領土問題、難民問題、NGOについてなどを伺いました。

翌日に行われた歴史勉強会では、中国と日本の歴史のとりえ方のかいについて中国人学生と話し合いました。これを踏まえ、リードアジアプログラム最後のブレゼン発表のテーマは、「偏見や先入観が生まれやすい環境の中で、これからの良好な日中関係のために我々にできることはなにか」というものでした。私の班が考えつい

た案は、相手国の言語・文化を学んでいる・興味のある学生が自国の子供たちに相手国の言語や文化を教えるというものの、旅行でも留学でも行ったことのある国は親近感が湧きやすい、旅行前に抱いていたイメージとよくも悪くもギャップが生まれることなどから、たとえば今回リードアジアプログラムで中国人学生24名と友達になりました、またそこで得たものを発信していくこと、日中互いの国でイベントや交流会を開催すること、互いの国にお仕事で関与しているOB・OGの方からビジネスの視点から見た相手国について話を伺うこと、などがあげられました。上記に述べた答えは、質問に関するシンプルな答えですが、そこに至るまでに、テーマの意味を一字一句考える作業から行いました。「偏見や先入観が生まれやすい環境の中で」↓どうしてこういう環境になるのか、どのような偏見・先入観なのか、「良好な日中関係」↓良好な外交関係とはどのような関係なのか、台湾と日本はどうか?アメリカと日本は?日本とアメリカは良好な関係ではなく、守護関係にあるのでは?など互いの国によって良好な国の例や偏見や先入観のとりえ方にはばらつきがありました。また、テーマには、「我々に出来ること」とあります。外交官の方(大鷹様ではない)に伺った話によると、政府間では一人一人の友好関係を築くことはなかなか難しいそうです。逆に捉えれば、一人一人の友好関係は私たち学生ならではの成し得ることだと思おうので、これからはより多くのことにアンテナを張り、日中関係をよりよいものにしていくために来年は実行委員という立場でこのプログラムに参加したいと考えております。